

千葉県私国立中入試概況

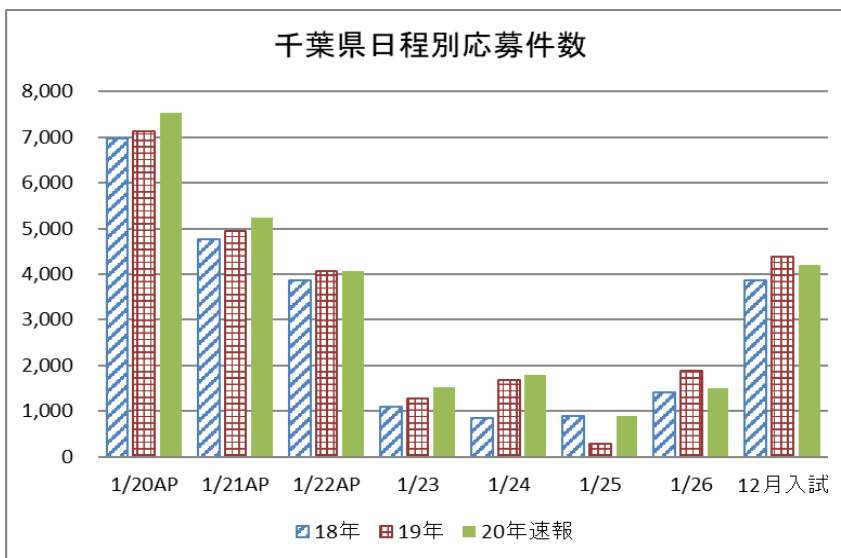
1. 概況 応募総数、実受験者数は増加が続く、第一志望入試は縮小

千葉県の私立中学入試は12月1日開始の推薦(第一志望・専願)入試と、1月20日開始の一般入試の2種類です。今年度の県内公立小6児童数は約53,300名で、昨年度より約100名増加しています。県内の公立中高一貫校を含む中学入試の応募総数は、3月1日現在約31,800件でした。一部に未公表の学校があり、最終的にはもう少し上乘せされることとなります。昨年度の最終が約30,500件でしたから、応募者の増加が続いていますが、増加のペースは少し落ち着

いてきました。実際の受験者数は約29,500名で、昨年度の同時期より約1,400名の増加、合格者数は約10,100名で、昨年度の同時期より約200名増えています。合格者数は、上位コース入試での入りやすいコースへのスライド合格や、特待入試での一般合格を含んでいない学校があつて、「入学できる」という意味ではもっと多くなりますが、実際の受験者数が1,400名増えているのに合格者は200名しか増えていませんから、全体的には入試が厳しくなっています。もっとも、全校が難化したわけではなく、応募者が減った学校もあります。

上のグラフは各校の入試の応募者数を日程別に合計して2018年度、昨年度と比較したもので、今年度は速報値です。12月の入試は、県立千葉・東葛飾の1次と私立の推薦・第一志望入試、12月実施の帰国生入試の合計、APとあるのは午前入試と午後入試の合計です。

12月入試の応募者数は、今年度減っていますが、一番の理由は昭和学院秀英が第一志望入試を取りやめたことです。いわゆる難関・上位校の中で第一志望入試を行うのは東邦大東邦だけになりました。1月の入試では、1月20日の応募総数が最大で、21日、22日と



少なくなっていく。20日と21日は昨年より増えていて、中学受験の拡大が応募者の増加に結び付いています。22日は昨年並みです。千葉大附属が今回から2段階選抜になって、1次を通過しないと受験できなくなったことや、入試科目が総合問題やプレゼンなどに大きく変更されましたことで、やや敬遠する受験生が出たことなどが影響して、20日や21日のような増加が見られなかったのでしょうか。23日以降は学校数が少なく、必ずしも応募者が増えていないのは、公立一貫校の市立稲毛の適性検査日程が年によって動くからで、24日→26日→25日と動きました。23日～26日の合計では応募者が増えていて、中学受験の拡大が表れています。

次に、難易度による志望校選択の傾向をみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年度の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女

別の内訳が未公表の学校は、応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年度は昨年度用の予想難易度、今年度は今年度用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年度と今年度とでは異なる場合があります。

千葉県の特徴は男女とも難関校のAグループが最多になっていることで、東京23区や多摩地区、神奈川県や埼玉県とは異なります。男女ともAグループが最多なのは同じですが、女子のAグループへの集中度合いは、男子よりは低く、その分C・Dグループ校の応募者が多くなっています。

昨年度との比較では、男子はA～Dグループが増えていて、増加の幅ではCグループが一番増えました。Eグループは減少が目立ちます。女子もEグループは目立って減少していて、千葉県でもEグループは選ばれなくなってきています。Dグループは大きく増えている、A～Cグループはほとんど昨年並みです。

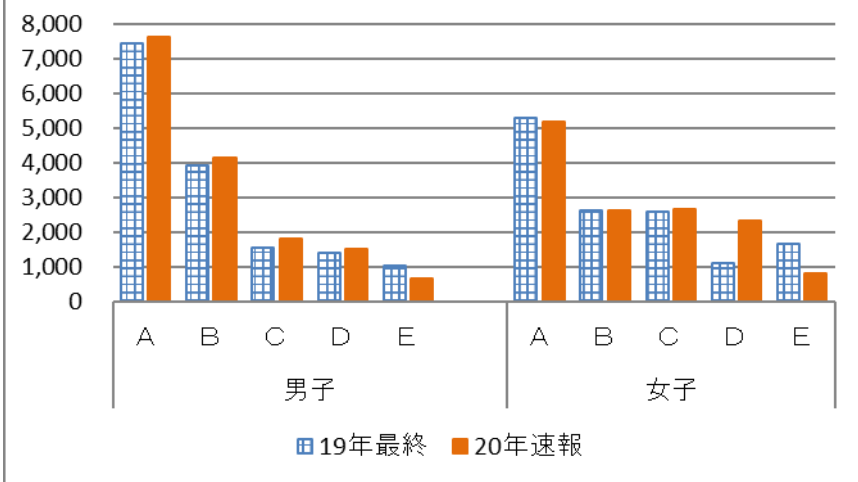
以下、各地域別に入試状況を見ていきます。県立千葉、東葛飾と市立稲毛は公立一貫校のページをご覧ください。

2. 市川市～千葉市方面

まず女子校から。国府台女子学院は、2018年度は各回次合計の応募者数がやや減少しましたが、昨年度は各回次とも増加、今年度は各回次とも昨年度並みです。2月5日の2回は合格者を増やしたためか、合格最低点がやや下がっていますが、入りやすくなったというほどではありません。12月の推薦と1月21日の1回は合格最低点もあまり変化しておらず、難度面では特に変わらない入試でした。

和洋国府台は2017年度から中学と高校の校舎を統合し、中高一貫教育の深度化を図っています。今年度

千葉県難易度別応募者数



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で千葉県私国立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。芝浦工大柏はGSの応募者を区分できないためBとしています。

- A…市川・渋谷幕張・昭和学院秀英・東邦大東邦
- B…芝浦工大柏・専修大松戸・千葉大附属・麗澤(AE)
- C…国府台女子・聖徳大附属女子(S探究特待)・千葉日大第一
・成田高校附属・麗澤(EE)
- D…聖徳大附属女子(S探究)・昭和学院(IA・AA)・東海大浦安
・二松学舎大附柏(特選・グローバル)・日出学園・八千代松陰
・和洋国府台
- E…暁星国際・三育学院・志学館・秀明八千代・翔凛・昭和学院(GA)
・聖徳大附属女子(LA)・西武台千葉・千葉明德・二松学舎大附柏(選抜)

は、1月24日の一般2回の英語選択を取りやめています。12月の推薦入試、1月の一般入試各回次とも応募者が大きく増えました。昨年も一般入試は増えていて、人気が上がっていましたが、さらに上がっています。松戸市の聖徳大附属女子が2021年度からの共学化を発表していて、女子校志向の受験生が和洋国府台に流れた面もあります。実際の受験者数、合格者数も増えていて、1月20日の一般1回の4科は合格最低点が上がっていますが、2科は昨年並みで、総じて難度はあまり変わっていないようです。

続いて男女校です。トップ校の渋谷幕張は、昨年度は各回次合計の応募者数が前年度並みでしたが、今年度はやや増えていて、2月2日の2次が増加の中心です。何としても同校に合格したいと、再挑戦する受験

生が増えました。1月22日の1次は合格者を少し絞ったため、合格最低点が上昇、やや難化しています。2次は逆に少し下がっていますが、入りやすくなるようなことはなく、高水準の厳しい入試でした。東邦大東邦は原則完全一貫校で、高校募集は帰国生だけになっています。昨年度から12月の推薦入試に並行して帰国入試も新設しました。昨年度、今年度と、少しずつ各回次合計の応募者数は増えています。推薦入試は今回も男子の実質倍率が22倍、女子は29.3倍の大激戦でした。合格最低点は昨年度よりも少し下がっていますが、このような高倍率ではあまり関係がないでしょう。帰国入試、1月21日の1回、2月3日の2回は昨年並みで、難度はあまり変わっていないようです。

例年幕張メッセで大規模な入試を行うことで有名な市川は、昨年度は各回次合計の応募者数がやや減っていましたが、今年度は昨年度並みでした。回次ごとでは1月20日の1回の男子の応募者が増えて、2月4日の2回では減っていますが、規模が大きい入試なので、受験生の動向が変わったわけではないでしょう。合格者数もあまり変わっていません。合格最低点は1回が少し下がっていますが、出題難度の影響でしょう。2回は昨年度並みで、難度に変化はなさそうです。昭和学院秀英は12月に実施していた第一志望入試を取りやめました。同校くらいの難度の学校が今まで第一志望入試を行っていたことが珍しいことです。入試回数を減らしたから、各回次合計では応募者数が減っていますが、1月20日午後の特別入試は応募者減、22日午前の1回は増加、2月2日午前の2回は昨年度並みでした。合格最低点は2回が少し下がっていますが、第一志望入試取りやめを機に少し出題が難化した面もあり、高倍率ですから入りやすくなったわけではありません。他の回次も昨年度並みの難度でしょう。

千葉日大第一は、2018年度入試で12月の第一志望、1月21日の1期とも応募者が増加、厳しい入試となり、1期と26日の2期は合格最低点が大きく上がって難化しました。昨年度はその反動もあって、全体的に応募者が減った入試でしたが、今回はどの回次も応募者が増えていて、隔年的な動きが見られました。第一志望入試の合格最低点は昨年度並みでしたが、1・2期は上昇、特に2期は難化した入試でした。東海大浦安も付属カラーが強い学校です。各回次合計の応募者数は、2018年度、昨年度、今年度と増加が続いていて、12

月の推薦は昨年度並みの応募者数ですが、1月20日のA、24日のBとも応募者が増加、特にAの増加が目立ちます。中学受験拡大が同校の人気を後押ししています。合格者数は昨年度とあまり変わらず、合格最低点はA・Bとも上がっていて、少し難化したようです。

昭和学院は特進・普通の2コース制で、マイプレゼンテーション入試を行ったり、昨年は英語のマイプレゼンテーションを新設するなど、21世紀型教育の方向性を進めてきましたが、2020年度からインターナショナルアカデミー (IA)、アドバンスアカデミー (AA)、ジェネラルアカデミー (GA) の3コース制に変更しました。各回次合計の応募者数は、2018年度が減少、昨年度は増加、今年度はさらに大きく増加しました。実際の受験者数、合格者数も増えていて、難度面ではGAが昨年の普通並み、AAは特進並み、IAは特進よりもやや高い水準だったようです。

日出学園は2016年度以降、人気が上がって各回次合計の応募者の増加が続いていて、今年も増えました。2017年度までは小規模な入試でしたが、今年はその2.4倍の応募者数です。各回次とも、今年は男子が増加の中心です。応募者、受験者の増加に対応して合格者も増えていますが、合格最低点は特に一般入試の2科が上昇、難化していて、4科も少し上がっています。口頭試問型のサンライズ入試も高倍率でした。千葉明德は1月21日午後算数1科入試を新設、2科4科選択入試に英語選択を取り入れるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は増加が続いていて、今回も増えています。増加の中心は1月21日から20日に移った適性検査型ですが、他の回次も昨年度並みかやや増えています。合格最低点は本稿執筆時点でまだ公表されていませんが、難度面では昨年度とあまり変わっていないようです。

国立の千葉大附属は、今年度から一般入試を大きく変更しました。昨年度までは4教科でしたが、今年度からは1次として書類選考を実施、書類選考の合格者が2次を受験する2段階選抜になりました。1次の書類選考は、従来からの小学校の報告書のほか、「自己アピール申請書(必要に応じて資料添付可)」を提出します。小学校時代に取り組んできたことなどをアピールする内容です。報告書とこの自己アピール申請書の内容を総合的に判断して合格者が決まります。2次は自己アピール申請書の内容に基づいたプレゼンテーシ

ョン(10点)、作文(400~500字、20点)、総合問題(大問2題、20点)、集団討論(テーマに基づくもの、10点)を受験し、合計点が高い順に合格者が決まります。

一般入試は男子の応募者が減って、女子は少し増えています。新しい入試の内容を見て、厳しいと思った男子受験生が多かったのでしょうか。1次は合格率が87%と高く、自己アピール申請書が普通に書けていれば合格したようです。2次は実質倍率5.6倍の高倍率ですが、例年通り補欠も発表しています。入試の内容が大きく変わったため、単純な難度比較はできませんが、少し難化したかもしれません。

ちなみに、同校は例年入試問題を公表していませんが、今年度は期間限定で公開していて、作文のテーマは「自由とは何かについて、具体例をあげてあなたの考えを述べなさい。」でした。総合問題の大問1は「漢字のしりとり」を題材にして、小問は、国語分野では「しりとりの完成」、算数の分野では条件整理が出題され、新傾向問題として英単語の接頭語(telephoneをキーワードとして、television、telescope、telepathy、teleport、telegraphを事例に「tele-」の意味を考えさせる)も出題、さらに教科を問わない出題として「電話」について異なる視点をできるだけあげることが出題されました。大問2は理科分野で、鉢植えのアサガオを描写する出題です。集団討論は著作権の関係で資料が非公表ですが、問題文からは「SDGs(国連、持続可能な開発目標)」がテーマだったと考えられます。全体に知識などより、知識に基づいた受験生本人の意見の表明に重点が置かれていて、21世紀型学力観での高度な出題です。また、英単語は知識に走らずに(現行指導要領を守り)、英語への関心を踏まえたものです。

3. 八千代市~成田市方面

成田高附属は、12月の第一志望入試、1月の一般入試とも男子の応募者が少し増えて、女子はやや減り、合計では増えているものの、昨年度並みと言ってよい応募者数で、合格最低点も第一志望入試はあまり変わらず、一般も下がったものの小幅で、出題難度の影響でしょう。安定的な入試です。八千代松陰は、2018年度は各回次合計の応募者数がやや増加、昨年度はかなり増えていましたが、今年は減りました。もともと12月の推薦入試の応募者数が全体の過半数になる学校で、

推薦入試の減少が今年度の減少の主要因です。合格者数は昨年度並みで、合格最低点も各回次ともあまり変わっていませんから、難度はあまり変わっていないようです。秀明八千代は小規模な入試の学校で、昨年度、今年度と、各回次合計の応募者数はやや減っています。もともと不合格者があまり多くないため、各回次とも難度はあまり変わらなかったようです。

4. 房総地区

この地区の各校は寮を設置していて、他の学校とは性質が異なっています。茨城県行方市の北浦三育が大多喜町に移転し、三育学院としてスタートしましたが、本稿執筆時点で入試結果は未公表でした。君津市の翔凜は一般入試の日程を変更しています。各回次合計の応募者数はやや減っていて、今年も小規模な入試でした。木更津市の志学館も曜日の関係で一部の入試日程を変更しています。応募者は昨年より増えたものの、やはり小規模な入試でした。暁星国際は一部の入試の日程を変更していますが、入試結果未公表でした。

5. 常磐・北総・T×線方面

女子校の聖徳大附属女子は、昨年度S選抜・選抜・進学クラスの3コース制からS探究・LAクラスの2コース制に改編しました。一部入試結果未公表の回次がありますが、各回次合計の応募者数は減っています。同校は2021年度から共学化して、校名を「光英VERITAS」に改称することが発表されたことから、その影響でしょう。合格最低点は上下いろいろありますが、総じて難度はあまり変わっていないようです。2021年度は大きく変わった入試結果になるでしょう。

続いて男女校です。芝浦工大柏はグローバルサイエンスクラスと一般クラスの2コース制です。2月4日の3回は作文とグループ面接の入試で、今年度はこの3回を「課題作文試験」の名称に変更しました。昨年度は課題作文入試の男子の応募者が若干減ったものの、女子と1月23日の1回、27日の2回は男女とも応募者が少し増えていました。今年度は1・2回の男子の応募者が増えていて、女子と課題作文入試は男女とも昨年度並みの応募者数でした。男子の人气が上がっています。課題作文入試は合格最低点が未公表ですが、1・2回はグローバルサイエンスクラス、一般クラスとも昨年度並みの合格最低点で、難度は特に変わっていな

いようです。

専修大松戸は、2017年度以降各回次合計の応募者数はほぼ一定の水準が続いて人気は安定しています。実際の受験者数はやや増えていて、合格者数は昨年度並みです。合格最低点は1月20日の1回と2月の3回は昨年度並み、1月26日の2回は少し下がっていますが、出題難度と得点分布の関係でしょう。難度面では各回次ともあまり変わっていないようです。

麗澤はAE、EEの2コース制です。2018年度は入試の回数を4回から3回に減らしましたが、昨年度は午後入試を新設して再び4回実施に戻しました。このため、昨年度は各回次合計の応募者数が大きく増えましたが、今年も増えています。特に1月21日の1回と24日の2回の増加が目立ちます。27日午後の3回と2月4日午後の4回は表現力重視型の出題ですから、従来からの教科型の方が受験しやすいと考える受験生が多いのでしょうか。1回の合格最低点は昨年度並みですが、2回以降は少し下がっています。出題がやや難化した面はありますが、併願受験生の動きから、やや入

りやすくなっているのかもしれませんが。

二松学舎大附属柏はグローバル・特選・選抜の3コース制で、入試に目立った変更はありません。2017、18年度と各回次合計の応募者数が増加しましたが、昨年度はやや減って、今年度は増えています。1月20日午前の1回と2月5日の5回は昨年度並みでしたが、他の回次が増えていて、12月の推薦入試の増加は同校の第一志望受験生の増加ですが、20日午後の2回、22日午前の3回、25日午前の4回の増加は、他校併願や同校を再チャレンジで考える受験生の増加で、いずれにしても人気が上がっていることになります。合格最低点は各回次とも概ね昨年度並みで、特にグローバルコースは今年度も高水準でした。各回次、各コースとも特に難度に変化は見られません。西武台千葉は特選と進学の2コース制でしたが、昨年度からコースを一本化しました。コースの一本化で両コース併願受験生がいなくなり、小規模な入試になっています。難度も昨年度とあまり変わっていないようです。